

1-08 成人脳性麻痺の人工骨頭置換術後の一症例 ～自助具使用での更衣動作自立を目指して～

○前西 広太(OT)¹⁾, 山田 義也(OT)¹⁾, 田中 一成(MD)²⁾

1) 箕面市立病院 リハビリテーションセンター

2) 箕面市立病院 リハビリテーション科

Key word : 脳性麻痺, 自助具, 更衣

【はじめに】今回、脳性麻痺による運動障害と知的障害を有する人工骨頭置換術後の症例を経験した。更衣動作に着目し、自助具を用いて下着と靴下の着脱動作が可能となったため以下に報告する。本発表に対して本人と家族に症例報告作成の説明と同意を得ている。

【症例紹介】50歳代男性。痙直型脳性麻痺(右片麻痺型)と知的障害あり。一戸建ての自宅で妹と二人暮らし。病前は日常生活動作自立。転倒により右大腿部を打撲。右大腿骨頸部骨折と診断。一般病棟へ入院となり人工骨頭置換術を施行。11病日後に当院回復期リハビリテーション病棟へ転棟された。

【作業療法初期評価】右下肢関節可動域は右股関節屈曲が90° 股関節外旋が10° 可能。Brunnstrom recovery stage 右上肢-手指-下肢 III-IV-VIレベル。右股関節部の疼痛訴え強い。握力は左19.0kg右測定不可。ピンチ力は左9kg右2kg。床上動作は物的把持用いても実施不可。コミュニケーションは発声可能だが、単語の発音が不可能のためジェスチャーを用いている。Kohs立方体組み合わせテストではIQ46。禁忌肢位については理解があり座位時や歩行時に股関節を外旋位にしている。病前の更衣動作は入浴後に立位で着脱を行う場合と、自宅の床に座り込み長坐位で行う場合があった。入院中には失禁あり。FIM運動項目30/91点、認知項目11/35点、合計41/126点。更衣動作(下衣)1点。排尿コントロール1点。家族より退院後も可能な限り日常生活が自立してほしいと希望あり。

【問題点】右下肢関節可動域制限により、立位または床上動作経由での更衣動作が実施不可。座位での右下肢足部への上肢のリーチ困難。失禁のため下着を履き替える必要あり。家族より可能な限り日常生活動作の自立希望があり、家族の介護負担軽減のため更衣動作の自立に向けた介入を行った。

【経過】ズボンの着脱は椅子座位で股関節を外転、外旋位で屈曲させる方法を用い練習し、自己で可能と

なった。靴下着脱では足部までの上肢のリーチが困難のため、ソックスエイド使用を提案した。通常のソックスエイドを使用した場合、靴下を通す動作とソックスエイドから靴下を足先に通す動作が困難のため、スリッパを加工したソックスエイドを作製し動作練習を行った。下着の着脱練習では、入院中失禁があったためリハビリパンツ(以下、パンツ)を使用して動作練習を実施した。右下肢にパンツの足を通すことができれば着脱が可能のため、ソックスエイドを使用し、パンツの縁にソックスエイドを取り付け、右足先に通して膝上まで引き上げる方法を指導した。動作時に、足先に通す途中でソックスエイドからパンツが外れ落ちる場合や、取り付け時にひっかけることが困難な様子が見られた。そのため当院で使用しているソックスエイドより外周を3cm程度大きくした自助具を作製し、使用練習を行うことで右下肢に足先を通すことが可能となった。自助具を使用しての更衣動作が自己で可能となり入院より71病日自宅退院となった。

【作業療法最終評価】右下肢関節可動域は右股関節屈曲が105° 股関節外旋が35° 可能。右股関節部の疼痛訴えは消失。FIM運動項目68/91点。認知項目変化なし。合計79/126点。更衣動作(下衣)5点。更衣動作は椅子座位で行い、ズボンは自己で実施可能。靴下はスリッパタイプのソックスエイド使用。下着は改良したソックスエイド使用し自己で着用可能となった。

【考察】本症例では靴下と下着の着用に専用の自助具を作製し、反復して動作練習を行うことで、知的障害を有する本症例でも動作が定着、更衣動作が自己で可能になった。動作能力や認知能力に合わせ自助具の工夫を行ったことが更衣動作の自立へつながったと考える。